

しょうがいしゃ
じりつせいかつじょうほう
障害者の自立生活情報

ナンバー
No.74

(2023年11月号)



こんかい せぶん
今回、Sevenメッセージのインタビューに協力していただいた
ちいきかつどうしえん こにしたつや
地域活動支援センターもくれんの 小西龍也さんです

もくじ

●シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消！	かいしょう じえいあーるとうかいろうどうくみあい	J R 東海労働組合のみなさん	2
●～Sevenメッセージ～	ちいきかつどうしえん	こにしたつや	
●全国一斉行動！ユニバーサルデザインタクシー乗車行動報告	じょうしやこうどうほうこうく	小西龍也さん	10
●編集後記	へんしゅうこうしき	じょうしやこうどうほうこうく	15
		16	

かいじょう シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消！

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者の状況、制度はどう変わってきたのか？今、取り組んでいること、これからのかだい課題はなにか、など語ってもらうというコーナーです。今回は、JR東海労働組合の畠野さん、三田さん、上田さんに新幹線の乗降介助する時、視覚障害者の手引きをする時など障害者と接する時に大切にしていることを中心にお話をいただきました。

なまえ はたの ひろたか さんだ けんいち うえだ けんじ
名前： 畠野 浩孝さん、三田 憲一さん、上田 謙二さん
しょぞく じえいあーるとうかいろうどうくみあい
所属： JR 東海労働組合

~バリアフリーが進んだのは最近の話~
やました こんかい 山下： 今回のナビゲーションでは、JR 東海労働組合の方々にお話を聞いていきたいと思います。主には畠野さんを中心に取材させていただきます。よろしくお願ひします。まずお伺いしたいですが、JR東海に関わって何年目ですか？

はたの 1987年4月にJRの会社が発足したときから所属しています。その前の国鉄時代からいますので、国鉄の入社が1981年です。JR東海にそのまま移行したという形です。改革をして新たに向かっていこうとJRにそのまま移行しました。

やました 山下： 国鉄で働くきっかけを教えてください。

はたの 畠野： 伯父が昔、九州の鉄道の蒸気の

きかんし 機関士をやっていて、お召し列車 れっしゃ (天皇など皇族が乗車する) の機関士が最高峰で、その運転をしたことがあると話を聞いて、新幹線の運転士を目指そうと思いました。そこにはたどり着けませんでしたけど。

やました おも うんてんし はじ かん 山下： 主に運転士から始まる感じなんですか？

はたの 畠野： まずは車両の検修の職場に就職するんです。そこから車両の知識を熟知して試験を受けて運転士になるというルートでしたが、JRになってからはまず営業(駅)業務に就いて、車掌業務、運転士というルートに代わってきました。エレベータ方式で試験もあんまりないです。適性検査があって検査に合格をする。それだけですね条件は。基本的には車両のことはあまり知らないです。僕らのほうがよく知っているという

かん
感じですね。すべてコンピューター
かんれん おお
関連が多くなりましたしね。

やました
山下：30年前は電車に乗る時とか、スロープはありましたか？

はたの
畠野：車両整備関係にいたので、あまりわからぬですね。JRになった時に僕と三田さんは車両の仕事をしていたけど、駅の営業の仕事に代わりました。その時、スロープあったかなあ。そもそもバリアフリーではなかったですね。エレベーターも業務用を使っていました。

やました
山下：新大阪駅も業務用のエレベーターありましたね。

はたの
畠野：JR東海発足時はどの駅も業務用のエレベーターでしたね。



はたの 畠野さん

やました
山下：いつスロープ導入されたんですかね。

さんだ
三田：重たいスロープですらなかったかもしれないですね。

うえだ
上田：スロープがそもそもあったんかなあ。

さんだ
三田：山下さんが、昔、乗られた時は、スロープありましたか？

やました
山下：最初に乗った時は、中学3年の時でスロープはあったと思います。

さんだ
三田：でも、今と段差と隙間は変わらないですからね。なかつたら乗れないですからね。当時は、ほとんど、改札業務に就いていたのでホームにあがることないんですよ。

はたの
畠野：さきほども触ましたが、業務用のエレベーターを使って移動してもらったことはあります。エレベーターが出来たのが10年前、15年前ぐらいですからね

さんだ
三田：障害者が電車に乗ってどこかへ出かけることが少なかったんだと思います。今でこそ、エレベーターが完備されたりとかなっていますが、当時は、障害者は新幹線に乗って長距離で外出するのが考えれない。という時代だったと思います。在来線も地下鉄も含めバリアフリー化になってきたのが、ここ10年ぐらいですよ。ひどいもんでしたよ。

やました
山下：僕も15年ぐらい前に新大阪を使って東京駅へ行くことがあって、業務用のエレベーターを使ってました。地下を通って昭和レトロな暗い所を通つて迷路でしたね。東京駅はもっと迷路でした。今は、普通にエレベーターを利用できますが、行列が出来て、乗るのに時間がかかるなあと思っています。

さんだ
三田：東京駅オリパラが開催されたんですけど、コロナが流行して、世界中からオリパラの選手だけじゃなくて関係者も日本に来れなかつたというのが痛手だった思います。

やました 山下：具体的にはどんなことが痛手だった
と思ひますか？

さんだ 三田：発信できなかつたんです。「日本これだけ遅れているよ」と。遅れることを世界に発信できる機会やつたんですけどね。障害者にとっては、逆にマイナスになつたんではないかなと思っています。通常で開催できてたら「これおかしいやん！新大阪駅というたら大阪の玄関口やのに、このエレベーターこんだけ狭いの！電車乗るのに段差や隙間はあるし。」もうちょっと世界の人に大阪に来てほしかつたなと思ったんですけどね。発信力からしたら弱かったのかな。



さんだ 三田さん

～乗りたい時間に乗れるのが当たり前に～
やました 山下：2年後の万博にむけて、なにか取り組んでることはありますか？

さんだ 三田：JRとしてはあんまりないです。
おおさか 大阪メトロさんが中心ですね。

はたの 畑野：主要な駅の段差をなくしていくこうという動きはあると思います。東京駅はなくしてきましたから、今度は大阪で関西万博を見越して、ホーム

の改良をしていくと言つていましたね。組合としては常にここ何年か、段差をなくすべきだと言ってきましたけどね、自由に利用できるのは公共交通機関の基本だと要望してきましたが。なかなか進みませんよね。

やました 山下：そう言えば、2年ぐらい前、畠野さん達と6席設置されている新幹線に乗車させてもらいましたが、その時もいろいろ課題があるなと感じました。

はたの 畠野：そうですよね。デッキに乗りましたけど「これでは、車いすの人は空しか見えないですね。」と山下さんが言われた時『そういうえば、そやな。デッキの窓は立っている人だけが見えたらいいのかなうじゃないよな。』と気づかされました。「今、駅に着いてるんだろうか。」「どこを走っているのかわからない。」ちょっと下の方に小窓を付けるなど工夫が必要だなと思いました。

やました 山下：6席の新幹線は今はどれくらいあるんですか？

はたの 畠野：約30編成ぐらいしかないです。もっと増えてほしいですよね。支援学校の修学旅行の時期は多いかなと思いますが、その他の時期はほとんど利用ないです。

やました 山下：6席あるということは、社会に広まっていますか？

さんだ 三田：告知もまだまだ弱いかもしれないですね。

はたの 畠野：編成数もそうですし、11号車にしかないというのには、まだまだですよね。

の乗りたい時間に乗れるということ
は当たり前のことなんですけどね。
自分たちで6席の新幹線の時間を調べていかないとダメですよね。
参議院議員の議員さんにもお話を聞く機会があって「現場視察に行きます。エレベーターが渋滞しているのは実感してます。」と言ってくれています。

三田：車いす席の切符をネットで買えない問題も、まだまだ残っていますよね。どうして、わざわざ駅の窓口に行かないといけないのか。それと、一人で介助なしで乗り降りされたい方は一人で行って頂いたらいいですし、介助が必要な方は依頼できるよう選べる仕組みが必要ですよね。

山下：ネットで買えるようならすごくスマートに乗れる人が増えると思います。

三田：出来ると思うんですけどね。



～誰もが乗れるようになることが大切～
山下：次の質問をさせてください。日頃、スロープ介助をしていて気づいたこ

とありますか？

畠野：いろいろ不自由だらうなと思った時に、余計におせっかいになっている場合もあるのだなと。僕たちは気を使っていろいろやろうとしているんだけど、介助を必要な方からしたら、そんなんええねん他の人と同じようにしてくれたらええねん。ということが最初の頃はわからなくて、よく怒られました。例えば「電車から降りるのは最後でいいですか？」と「なんで最後にいかなかんの？」とか。パーサーの人とかは「最後に行きますね。」と言われるけど「なんでなん。早く降りて目的地に行きたいねん。」僕らからすると、先にいくとあとがつかえて余計に嫌なんじゃないかなと思うのですが。

三田：あるお客様さんが東京駅からきて新大阪駅で降りる時に京都駅を出たぐらいで降りる準備をさせられて、でも、新大阪駅着いたら降りるのは他のお客様さんが先で車いすの人は一番最後なんです。早くから準備させられて降りるのが最後。これで苦情が寄せられました。ホームで30分怒られました。

山下：僕も東京駅から新大阪駅へ帰る時、京都駅に着くと車掌さんが来て、デッキに移動してくださいと言われことがあります。でも、降りるのは他のお客様さんが降りた後になりました。

畠野：寄り添うということではなくて、一緒に考えるということが、僕たちの

ほうがおgoritaかぶりという、お手伝いしてあげているということではなくて、一緒にどう考えていくというよそ寄り添いかたが、なかなか難しいなと。

三田：だから、当事者の話を、具体的に聞くというのは大切ですよね。そんなことを感じているんやなど、車いすのお手伝いや視覚障害者の方の介助をさせてもらう時に、わかったことが良かったなと思います。目線が合う。合わせていただいた。なかなかわかりませんもんね。

畠野：障害者と関わらないとわからないことですよね。

山下：僕がエレベーターを待っていても、外国人の方は先に譲ってくれることが多いですね。

畠野：文化の違いなんですかね。後ろの方に車いすの方が並んでいても、先どうぞと言ってくれますよね。

山下：スロープのお仕事はどうぐらいされてるんですか？

畠野：5年目になりますね。

三田：私は、17年ぐらいやってますね。そういう業務が始まった時は1日数10件から始まって、今は多い時は120件ぐらいです。昔からしたら考えられない。環境もまだまだ不十分ですが、整いつつありますからね。

畠野：障害者だけじゃなくて、ご年配のお客様のお話で「今までやつたら外に出られなかつたんです。娘や孫に来てもらえばっかりでした。でも、設備や体制が整ってきたので、行け

るようになりました。」と言ってくれるようになりました。誰もが安心しての乗れるようになることが公共交通機関として大事やなと改めて思いました。使命なんだと思います。そういうお話を聞けたことは良かったと思います。

～もっと社会に向けて取り組んでいく～

山下：社員にむけて研修はしているんですか？

三田：ある社員の提案でアイマスクを付けてみたり、車いすに乗ってみるなどの研修をやり始めています。実際に車いすに乗って声もかけられずに急に上げられたりすると、すごく怖いですね。これまで、そういう研修をしてこなかったので、そういう発想にもならなかったんです。体験型の研修をやっと導入してます。やらないと押しつけになってしまいますが、当事者と一緒に出来たらいいなと思います。

山下：研修の時は、当事者も参加する方がより具体的な研修ができると思うので、研修をされる時は、協力させていただきたいと思います。障害者と関わって良かったなと思うことはありますか？

畠野：当事者の意見や状況を把握して、どういう風にバリアフリーを実現するかの話をさせてもらったり色々な所に掛け合いに行けたことです。それが一緒に出来た。視野も広がり、

じつけん
実現できたことが自信になりました。

とうじしゃ
1つ1つのことを当事者と一緒にやる

いみ
意味の重要性をとても感じました。

さんだ
三田：当事者のお話を聞かせてもらうと、
かいぜん
改善することがいろいろ出てきます
よね。

うえだ
上田：J R 東海労働組合を結成して32年
になりました。仕事を通じて、
しょうがいしゃ
障害者と関わりを持って労働組合
なに
として何ができるのか、なかなか
こじん
個人としてはできないわけですよ。
ろうどうくみあい
労働組合としてヒューマニズムを
たいせつ
大切にしているので、それで何が
でき
出来るのか、スロープ改良問題や
くるま
車いすスペース 6席設置など、
でいーぱーあい
D P I さんや議員さん、ちゅうぶさ
であ
んと出会って、そこで初めて課題を
し
知って、繋がりを持ってやれること
をやっているという感じです。32
ねんまえ
年前はバリアフリーのことは発想し
てませんでした。昔は旅のプレゼン
きかく
トという企画で J R 東日本の組合
しおがいしゃ
が障害者を招待したという企画も
ありました。

やました
山下：どんな企画ですか？

はたの
畠野：1つの車両を借りて北海道まで行つ
てましたね。その時に参加された
しょうがいしゃ
障害者の方はお父さんやお母さん
ふろ
としかお風呂に入ったことがないん
くみあいいん
です。「組合員の方が、俺と一緒に入
かた
るんやで。」と言って体や頭を洗つ
ふろ
てあげました。お風呂から上がった
あと
後、すごい喜んでいたという話を
ききました。

やました
山下：その子は、とても貴重な体験をされ

ましたね。

はたの
畠野：そうですよね。介助できる資格を持つ
かいじょ
てるわけじゃないけど、やっぱりヒ
ューマニズムというところで同じ
おな
にんげん
人間やん。その当時から障害者を
いしき
意識するようにはなってますけど。本
かくてき
格的に障害者と接したのは仕事に就
いてからですね。

うえだ
上田：スロープ介助のお仕事は単なる仕事
おも
じやないだなと思いました。

はたの
畠野：労働組合は、自分たちの賃上げ要求
おも
だけやればいいように思われがちで
しゃかいせい
すが、社会性だと人間性も大切に
にんげんせい
してもっと社会に目を向けて政治的
たいせつ
なこともあり、そういうことを、ひとつづつ取り組んでいって初めて、労働
くみあい
組合としてどうしていくのか。自分た
ちの要求だけやっていては、そこに
けっしゅう
結集している仲間はヒューマニズム
たいこう
だと抵抗していくとか、共生し
きょうせい
ていくだとかいろんなことを考
かんが
えていく、そういう人間性は必要なのかな
おも
と思います。



うえだ
上田さん

～まだまだ差別は起きている～

山下：ハード面、ソフト面、変わってほしいことはありますか？

畠野：投資するところにちゃんと投資する。駅の無人化だと、障害者は困りますよね。障害者差別の研修というか教育をちゃんとしていくべきだと思います。私鉄などには導入されていますが、サービス介助士の資格を持つた人を増やしていけたらなと思っています。

三田：具体的な例ですけど、聴覚障害者の方にに対して、第一印象として手を差し出す。聴覚障害の方と聴導犬が待っている場所へ向かった時に、ベテランの係員が最初に何をしたかというと、手を差し出したんです。お客様はご立腹されて苦情になりました。犬を連れてたら、もう盲導犬と思い込んでしまってるんですよね。聴導犬と書いてるし、事前に「聴覚障害者の方ですよ。」と伝えているにも関わらず、手を差し伸べてしまう。対応する側の教育もやらないと。ハード面は組合も会社に要求していくことも大切ですね。

畠野：前にはこんなこともありました。介助犬を連れているお客様を介助してほしいと係員に伝えて「介助犬やからな。小さなプードルみたいな犬も介助犬の場合もあって膝の上に乗せている場合もあるからな。ケースに入れてください。なんて言うたらアカンで。介助犬とマークも付けてると思うけど。気をつけて案内せなア

カンで」と言ったことはあります。様々な状況があるから教育は大切だと思います。

山下：安心して新幹線に乗るために、どうしたらいいと思います？

畠野：駅についたら「導線が確保されている」「電車への乗り降りがすぐできる」「切符を買うシステムがスマート」であったり「お店がどこにあってとかいう案内「自分がどこに行きたいのかすぐ分かるシステム」が誰にでもわかるようになれば良いなと思います。

三田：無人駅の話で具体的な例があるんですけど、新幹線の名古屋駅から在来線に乗る時に「降りる駅が無人駅だから1つ手前の駅に変えてもらえるようにお客さんに言うてくれませんか？」というのは過去にありました。

山下：降りる駅を変えるなんて健常者では考えられないですよね。バリアフリー化を進めるために鉄道事業者や障害者がやっていくべきことはなんだと思いますか？

畠野：一緒に課題を話し合ったり、一緒に現場調査に行ったり、その結果をいろんな人に伝えて一緒に問題意識として捉えてもらう活動を共にしていけたらと思います。障害者の方が知らないところで勝手に決められることがないようにしたいですね。

山下：私たちが言っている「私たち抜きに私たちのことを決めないで」これは、すごく大事だし、まだまだ社会に

三田：新大阪駅の可動柵は12月に全部設置されました。隙間解消は、まだですが、来年2月には一部で解消されますね。障害者差別解消法が来年4月義務化されますよね。自分たちでやりたい。自分たちで自分たちのことは決めたい。私たちの意見を聞いてくださいとすることですね。

山下：大事にしていきたいことです。まだまだお聞きしていきたいこともありますが、最後の質問をさせてください。みんなさんの座右の銘を教えてください。

畠野：実践と理論。労働組合で学んできたことで、まずは実践から始まるんです。その後に理論がある。と言われた先輩がいて、何事も行動をまず起こして、理論が先にくると絶対におかしくなるから、まず行動を起こすことから始めなさいと。

三田：私は臨機応変。人生、臨機応変。いろいろな場面に遭遇するから。そのときは、こうあるべきやというは横に置いといて、その時その時、臨機応変に対応していかないとダメな世の中になってきている。昔のこうあるべきやぞ。という世の中は、もう通用しない。『井の中の蛙大海を知らず』というのは、我々のことであって、同じ業種で働いていて他のことを何も知らないというのは、もう少し考え方を軟らかくしていかなアカンなと思います。

山下：今日は、貴重なお話を聞かせていただ

きました。これからもバリアフリーのために一緒に活動していけたらと思います。よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

畠野、三田、上田：

ありがとうございました。

2021年 車いす席6席ある新幹線に乗車してきました。



6席満席になるぐらい需要が増えてほしいし、そのためには、6席スペースがあるということを知ってもらうことが大切ですね。

せぶん
~~~Seven メッセージ~~~

名前：小西 龍也さん 35歳

所属：地域活動支援センター もくれん

趣味：プログラミングやゲーム等



山下：今日は大阪市東住吉区にある地域活動支援センターもくれんで、ピアサポーターをされている小西龍也さんにお話を伺いたいと思います。よろしくお願ひいたします。

小西：よろしくお願ひいたします。

○今の仕事に関わるきっかけ

小西：きっかけは「生活訓練のスタッフからピアサポーターという仕事があるねんけど、どうかな。」と言われたことがきっかけです。スタッフからピアサポーターの仕事内容の説明は受けたんですけど、正直、完全には理解できていないところもあったんです。そのスタッフの期待に応えたいという一念で、このピアサポーターの仕事を5年続けています。もくれんではピアサポーターは僕も含めて2名でやっています。

山下：ピアサポーターになるための研修は必要ですか？

小西：大阪市都島区のこころの健康センターで研修を受けまして、そこで8回研修を受けて修了証をもらえる

かたち ねんかん つづ  
という形です。5年間も続けることができ かんむりょう 出来て感無量です。

山下：もくれんで働く前は、どうされていましたか？

小西：もくれんで働く前は郵便局で働いてたんですけど、勤めてた時に上司からのパワーハラスメントで統合失調症になってしまって「ハガキを2,000枚売ってこい！」と言われて、なんとか成し遂げることは出来たんですけど、辛い思いだけを背負ってしまいました。

山下：郵便局を辞めてからは？

小西：1年半ほど、ひきこもってなんとか社会復帰したいなあ。と家族からのあとおおさかしひらのくきれうりわり後押しもあり大阪市平野区喜連瓜破にある職業リハビリテーションセンターに行こうと思ったんですけど、8割出席しないと卒業ができない

と説明を受けたので、就労移行支援もくれんに通うことになったんです。就労移行支援に通ってる途中で、挫折してしまうことがあったので「生活訓練に通った方が良い。」と言われて、もくれんに通うことになつたということです。

**山下：**生活訓練に通い始めて、小西さんのなかで変化はありましたか？

**小西：**生活訓練に通い始めて3年ぐらい経つて「小西さん変わったね。」と言ってくれて、その姿を見てピアソポーターになってみないか。と声がかかったんですね。当時は、人と話をしなかったし、あるきっかけがありまして、それを経験したから変わっていったと思います。

**山下：**どんなきっかけですか？

**小西：**私は、パソコンのことが少し詳しくて、パソコンが苦手なご利用者さんがいて、その方に「良かったら教えましょうか？」と言って親身になって教えたわけです。その結果、心の底から「ありがとう。」と言ってくれたんです。ただそれだけなんですけどね。

**山下：**人から頼りにされることは自分自身の自信にも繋がりますよね。

**小西：**そうですね。小学校から高校までイメージを受けてたことがあって人から感謝されることはあんまりなかったんです。そのことで、心の底からありがとうございます。と言ってもらえて私は変わることができました。その方は今も生活訓練に通われています。当時生活訓練のスタッフから言われたの

は「本来の力が發揮出来たんやで。」と言われて、その言葉は今でも心に残っています。今はその支援者は退職したんですけどね。

**○仕事のやりがいを教えてください**  
**小西：**今まで自分のことを話してくれなかつたことが「小西さんやったら話せる。」とか「小西さんと話をしてる面白いわ。」と言ってくれると、僕もやりがいを感じますね。5年間続けてるといろんな人と会ってきたというのもあります。面白さは、自分自身の病気のことが知れるということ、統合失調症という病気を持っているんですけども、その中でこういう症例があって、こうやって回復していく過程があるということを知れることは面白いですね。

**山下：**日頃、利用者さんとの関わりの中でも、やりがいとか感じることはありますか？

**小西：**パソコンの使い方を教える時も「小西さんが居てくれたから試験に合格が出来た。」という言葉をいただけたことはやりがいに繋がっています。

**○続けられている理由は、なんですか？**  
**小西：**5年経ちますけど、勤めてる中で辞めたいという気持ちがなかったかというと正直、ないとは言い切れないです。

すが、ピアソポーターの時給の面と  
か待遇の問題とか他の仕事に転職し  
た方がいいんじゃないかと考えたこ  
ともありました。今の職場での雰囲気  
「昔の職場のことを考えて。」と親  
から言われて、そういうこともあって  
今の方がええかなと思って、雰囲気も  
良いし給料も、もらっているし、今  
の職場の方が良いんかなと思い続け  
た結果、今があるんですよね。

山下：悩みを相談できる人はいますか？

小西：一応います。余談ではありますが、  
家族であったり、利用者さんから  
「小西さん辞めないで。」と言われた  
りとか「辞められたら俺は誰と話し  
たらええんや。」と葛藤される方もい  
て、私は必要とされているんやなと  
改めて感じさせられました。そのこ  
とがあったおかげで、今も続けられ  
ていると思います。

山下：そういう言葉があるのとないのとで  
全然違いますよね。

小西：本当にそうですよね。言葉の重みつ  
てすごいなと思います。

山下：これからも続けてください。

小西：はい。これからも続けていくつもり  
でいます。ありがとうございます。

山下：1か月どれぐらいの方のお話をお聞  
きするんですか？

小西：100人ぐらい傾聴することもあります。「小西さんやからお話しできる。」  
と言ってくれる人もいるので、そういうことを聞くと必要とされてるん  
やなと嬉しくなります。

山下：ピアソポーターはどんなことをする

お仕事ですか？

小西：ピアカウンセリングが主で、話を聞くことに徹するとか、思いを聞き取ることが中心になります。パソコン講座であったりとか、いろんなプログラムの起案をさせてもらったりとか、利用者がどんなことをしたら楽しいだろうかとか考えたりとか。

山下：利用されている年齢層は？

小西：40歳から50歳代が多いですね。友達を連れてきてその中で交流をされる方もいますね。いろんな障がいの方が来られますね。誰でも来れる場所を目指してます。地域活動支援センターは居場所ですからね。



## ○当事者と関わる中で大切に

していることは、なんですか？

小西：対等性です。私は精神障がい、知的障がい、発達障がいもあるんです。でも、その中であの人は知的障がいだからこういう仕事は絶対無理だろうとか。じゃなくて、知的障がいがある私でもここまで出来るんやでというのを見てもらって「私は知的障がいやけども、小西さんみたいにできるんや。」と対等性を持って接することを大切にしています。大切にしないと、世の中変えていくのは難しいと思うんです。対等性にズレが生じる時もありますけどね。

山下：そういう時はどう対処してますか？

小西：例えば、友達感覚で接しないでほしいと言われる方がいたので、そういう方には敬語を使って接するとか礼儀をもって接します。逆に敬語で話されるのが苦手という方には友達感覚でお話をさせてもらったりとか、そういう風に上手いこと工夫するようにしてます。

山下：誰にでも同じように接することが対等じゃなくて、その人に合わせた対等性ですよね。対応に困ることもあると思うんですけど、そんな時は、どうされてるんですか？

小西：仕事の悩みを相談する場所として他団体の方に協力してもらっています。そこで色々、吐き出しをしないと自分自身が潰れてしまうと思います。自分自身が潰れてしまうと、

利用者さんとスタッフさんと共倒れになってしまふそういうことになってしまいますよね。頑張りすぎる時もありますね。むしろ暇な時間が私は苦痛というところもあって、でもどつかで自分でブレーキをかけないと本当に潰れてしまうので。ブレーキをかけられるようにしてます。

山下：頑張り過ぎない秘訣はありますか？

小西：家族の顔を思い出したり必要としてくれている人の顔を思い出したりするようにしてます。職があることは幸せと思わないといけないです。障がい当事者が働くって難しいですね。精神障がい者への差別はまだありますよね。ピアソーターが活躍しているのに病院には「ピアソーターは不必要や。」と思われたりしますよね。たかが共感といわれるけど「共感の力を舐めたらアカンで。」と思います。

## ○活動していて気付いたことは？

小西：就労移行支援に通っていた自分と今の自分とだいぶ変わったことはあると思うんです。人間不信を解消されたり、人と話すことに抵抗がなくなりました。笑顔が増えたと思います。家族もその姿を見て「あんた、だいぶ変わったな。」と言ってくれてるので、嬉しいです。祖母は私がしんどかった時期にも「自分のやれる範囲で頑張りや。」と言ってくれたので、涙が出るぐらい身に染みたという

か、せめてもの恩返しに毎日、祖母の  
好きなダージリンティーをローソン  
で買って行って、毎日飲んでもらっ  
ています。仕事は週4日働いていま  
す。家族の顔を思い出して頑張って  
います。

### ○座右の銘はありますか？

小西：【為せば成る】です。我々も障がい者に対する社会情勢を変えていか  
なアカン！という思いを持ち続けて  
るからこそ、障がい者差別解消法  
が出来たりとか合理的配慮が義務化  
に変わってきたりもしてるので努力  
も必要ですね。合理的配慮の中身を  
考えていきたいです。

山下：為せば成るを座右の銘にしようと思  
ったきっかけは？

小西：小学校の教師から「為せば成るで  
と言われてたんです。どんな意味か  
なと思って辞典で調べたら、こうい  
う意味やったんやなと思って。しん  
どくなった時にも為せば成ると思う  
ようにしています。自分の人生みたい  
な言葉やなと思っています。

### ○挑戦してみたいこと

小西：地域移行に挑戦してみたいですね。  
病院とかで長期入院されている方  
の力になりたいというか私でも役  
に立てるかもしれないという思いか  
らです。入院経験はないけど、やつ

てみたいと思いますね。仲の良い方  
がいるんですけども入院してて地  
域に戻ってきてほしいな、そのお  
手伝いがしたいなと思っています。  
結構、長く入院している方なので。  
具体的にはこれから考えていく  
必要がありますが。

山下：ピアソーターが増えていったらい  
いですね。増やしていくためにはど  
ういう方法があると思いますか？

小西：地域によってピアソーターの  
認知度の差があるので啓発活動は  
大事だなと思います。いろんな人に  
知ってもらうこと大切ですし、私も  
ピアソーターの仕事をあることを  
知らなかつたので。

山下：今日は貴重なお話をありがとうございました。

小西：ありがとうございました。

### 【小西さんにお話を伺った感想】

実際にピアソーターをされている方にお  
話が聞けて勉強になりました。言葉の力  
って、すごいなと思いました。小西さんの  
言葉で助けられた利用者さんもいるだろう  
し、利用者さんの言葉で小西さんが励みに  
なったこともあつただろうし。やっぱり『ピ  
ア』=『仲間』っていいなと実感しました。  
小西さんありがとうございました。

ぜんこくいっせいこうどう  
全国一斉行動！ユニバーサルデザインタクシー乗車行動報告

じょうしゃこうどうほうこく

10月20日（金）にDPI日本会議の呼びかけでユニバーサルデザインタクシー

（以下：UDタクシー）への一斉乗車行動企画に参加してきました。

### 「UDタクシー（ユニバーサルデザインタクシー）」とは

健康な方はもちろんのこと、足腰の弱い高齢者、車いす使用者、ベビー カー利用の親子連れ、妊娠中の方など、誰もが利用しやすい”みんなに やさしい新しいタクシー車両”であり、街中で呼び止めても予約して も誰もが普通に使える一般的なタクシーです。運賃は一般的なタクシーと同じです。

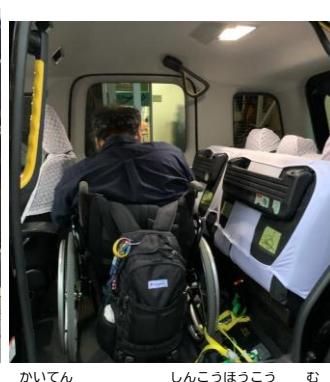


### ○今回の目的 全国一斉行動！UDタクシー乗車行動 企画書より一部抜粋

車いすのまま乗車できるユニバーサルデザインタクシーの普及が進んでいます。国土交通省は2025 年度までに総車両数の25%をUDタクシーとする目標を掲げ、2022年3月時点で、全国のタクシーのうち16.9% (29,657台/175,425台) が導入されています。しかし、残念なことに、車いすユーザーへの乗車拒否が無くなりません。国土交通省は2018年11月に通達を出し、事業者に対し、車いすユーザーの乗車拒否は道路運送法に違反すること、定期的に研修を実施すること、UDタクシーを指定した予約・配車が可能となるようにサービスを充実させること等を求めました。DPI日本会議では、2019年度に続き、本年10月20日（金）に全国一斉でUDタクシーの乗車運動を行います。車いすユーザーが乗車することを通して、乗車拒否の実態を把握し、課題がどこにあるか調査する。

### ○UDタクシー一斉乗車行動に参加して～

南海なんば駅近くタクシー乗り場から乗車を試みました。当日は大雨で、タクシー乗り場に屋根を設置してほしいと思いました。雨に濡れないためにタクシーを利用することもあるのに、乗車するまでに、びしょ濡れになります。車いすユーザーはUDタクシーに乗降する時に運転手にスロープを準備してもらわないといけません。手際のよい運転手だったら、まだマシかもしれないけど、慣れない運転手だと乗降するまでに運転手も利用者も、お互い濡れて気を遣います。



後部座席から乗車

結局なんばでは乗れず、天王寺へ移動し10分ぐらい待ったぐらいでUDタクシーに乗ることができました。乗車拒否されることなく乗ることができましたが、運転手がスロープを出す経験がなく「設置のやり方がわからないので時間がかかったらすみません。」と言っていました。運転手さんはタクシードライバー歴8年。UDタクシーの運転手になって3ヶ月。研修の時は横で見ていただけで詳しくは研修を受けていないとのことでした。UDタクシーの課題は、運転手の研修が不十分だということを実感しました。

れきねん ゆーでーい

う

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

へんしゅうこうき  
**編集後記**

こにし きょうかん ちから な ことば いんしうてき ちからづよ はなし き  
小西さんの「共感の力を舐めたらアカンで。」という言葉。印象的で力強かったです。お話を聞かせ  
かいしよう J.Rとうかいろうどうくみあい  
ていただきありがとうございました。また「いろんなテーマのなぜを解消！」ではJR東海労働組合の  
かたがた はなし うかが ひごろ いつしょ けんしょう とうじしゃ つた  
方々にお話を伺いました。日頃から一緒にバリアフリーの検証をしたり、当事者のことを伝え  
たいせつ おも ゆでーいー じょうしゃ だいすう うんてんしゅ けんしゅう  
ることが大切だなと思いました。UDタクシーにも乗車しました。『台数が少ない』『運転手の研修が  
ふじゅうぶん しんとう  
不十分』といったようにまだまだ浸透していないですね。

(やました)

●各団体で企画しているものがあれば、当センターが発行している機関誌ナビゲーションに掲載してみませんか？ナビゲーションは3月、7月、11月に発行しています。掲載する際、各企画のお問い合わせは当センターではなく、直接、各団体にお願いいたします。当センターにお問い合わせいただきましても、お答えいたしかねますので、ご了承ください。

●みなさんからのご意見、ご感想をお待ちしております。記事に対するご感想、日ごろ感じておられる疑問、こんな情報を知ってるよなど、なんでも結構ですので下記の連絡先までお寄せいただければ幸いです。また、突然、取材にお伺いさせていただき、ご迷惑をおかけすることがあるかも知れませんが、その際には、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

わたし かんが じりつ  
☆私たちの考える「自立」は・

はたら かね かせ こと み かい

働いてお金を稼ぐ事や身の回りのことを全部自分で出来るようになる事、それだけが「自立」でし  
ょうか？もちろんそれも大切なことですが、できない事は人の手を借りたり、気持ちを上手く伝えら  
れないときには仲間にサポートしてもらったりしながら、一人一人の生活を創っていくことも「自立」  
であり、色々な方法でお手伝いしていきたいと考えています。

ち い き し ょ う が い し ゃ じ り つ じ つ げ ん み ち あ な い た と か い ご  
☆地域で障害者の自立を実現していくための「道案内（ナビゲーター）」として、例えば「介護してくれた人を探しているんだけど?」「家中をもっと使いやすくしたいけどどうすればいいの?」そして「自立したいけど自分には無理かな?」自立生活センター・ナビでは、こうした障害者や家族の悩みや相談について、障害を持つピアカウンセラーが同じ障害者の立場でお話を伺い、制度の説明や申請のお手伝い、住宅改造などのアドバイスをさせていただきます。その他、電動車いすで街へ出かけたり仲間と一緒に料理を作ったり地域で生活していく上で必要なことを、楽しみながら経験できる「自立生活プログラム」や、自立生活に関わる各分野の方々をお招きしてお話を伺う「自立生活セミナー」の開催、情報誌「ナビゲーション」の発行も行っています。

# はっこう じりつせいかつ 発行 自立生活センター・ナビ

でんわ 06 (6760) 2671

じゅうしょ おおさかしひがしずみよしくにしいまがわ  
六所 大阪市東六所川

ファックス 06 (6760)2672